

# 湿原と農地と観光のハーモニー

- 食料供給基地としての持続的発展
- 世界水準の観光地の形成
- 北海道型地域構造の保持・形成
- 強靱で持続可能な国土づくり

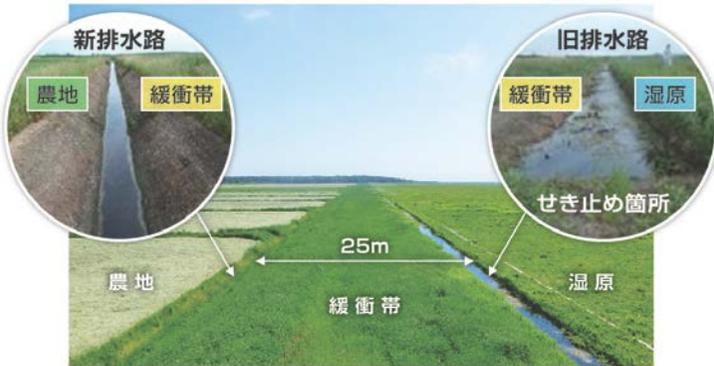
「世界の北海道」を目指して  
—北海道総合開発計画—

- 環境と経済・社会の持続可能性の確保・・・農業の基盤整備により、排水路の機能の回復、湛水被害の解消を図っています。整備にあたっては、農地の排水性の改善と湿原の乾燥化の防止を両立させています。
- 物流ネットワークの整備等・・・国道の整備により、地吹雪が多発する冬期でも生乳は安全で速やかに輸送されています。
- 稚内開発建設部は、湿原と農地の共生を図る農業生産基盤と国道の整備を通じ、地域の観光と酪農を支えています。

【緩衝帯】 農地の排水性の改善と湿原の乾燥化の防止を両立させる仕組み

農地と湿原に適した地下水位の均衡を図るための緩衝帯を設置

- 農地側の新排水路により農地の低い地下水位を保持
- 湿原側の旧排水路は水を数力所でせき止めて池にすることで、湿原の高い地下水位を保持
- 緩衝帯の用地は農業者の善意と英断により無償で提供



- 緩衝帯を設置することで、湿原は高い地下水位の保持



国道の整備により、冬期間も生乳を安全で速やかに輸送できます。宗谷地域をはじめとした道内への安定的な牛乳輸送に貢献。



総面積2万3千haの広大な湿地帯サロベツ原生花園・サロベツ湿原センターは、日本最北の国立公園「利尻・礼文・サロベツ国立公園」の玄関口です。夏にはエゾカンゾウを始めワタスゲやネジバナといった珍しい花々が咲き、多くの観光客が訪れます。



【集乳・牛乳輸送ルート】



豊富町では、雄大なサロベツ原野を望み、1万3千haの牧草地を基盤とした放牧型酪農を展開しています。乳牛頭数1万6千頭、年間出荷量は7万2千tで全道でも上位クラスの出荷量です。